



## プレスリリース

平成 17 年 1 月 12 日

関係者各位

大和インベスター・リレーションズ株式会社  
〒100-8289 東京都千代田区丸の内 1-8-1  
Tel 03-3283-7000(代表) Fax 03-3283-7077

アナリスト・ファンドマネージャー99人のアンケート

「社会的責任投資（SRI）の日本企業への影響」の調査結果から

### ● 社会的責任投資（SRI）の認知度 95%に上昇

ファンドマネージャー（100%）、バイサイドアナリスト（100%）、セルサイドアナリスト（90%）の順前回調査（2004年4月）の92.6%から2.3ポイント増加。

### ● 企業の社会的責任（CSR）は94%に認知度向上

バイサイドアナリスト（100%）、ファンドマネージャー（94%）、セルサイドアナリスト（88%）の順前回調査（2004年4月）の90.1%から3.8ポイント増加。

### ● 「SRIがレポート作成や投資銘柄選択に影響する」は全体の35%に上昇

ファンドマネージャー（38%）、セルサイドアナリスト（29%）、バイサイドアナリスト（28%）の順前回調査（2004年4月）の21.0%から14.3ポイント増加。

企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）への取組みを投資基準にする社会的責任投資（SRI:Socially Responsible Investment）が注目されています。SRIファンドは、2004年10月28日現在、日本国内に14種類あり、純資産額は約1,346億円です。先行する米国では総資産運用残高が2001年末で約300兆円に達しており、日本でも大手投信会社が相次いでSRIファンドを設定するなど今後の成長が見込まれています。

大和証券グループのIR（投資家向け広報）コンサルティング会社である大和インベスター・リレーションズ株式会社（社長・宮田長吉）は、「社会的責任投資（SRI）」の日本企業への影響について、2004年12月10日～12月20日、日本国内の主要な日系・外資系証券会社調査部門及び機関投資家99名（ファンドマネージャー16名、バイサイドアナリスト25名、セルサイドアナリスト42名、その他16名）からアンケートの回答を得ました。なお、前回と同じ質問項目に一部追加してアンケート調査を実施しました。前回（2004年4月）に続いて4回目の調査です。

今回の調査概要は以下のとおりです。

- SRIについては、「よく知っている」「知っている」を合計すると94.9%。
- CSRについては「よく知っている」「知っている」を合計すると93.9%となり、前回の90.1%から3.8ポイント認知度が向上。
- SRIの中で一番関心の高い項目は、前回と変わらずガバナンス、アカウントビリティ（法令順守、情報開示等）。
- SRIの考え方の中で、一番分かりにくい、なじみにくいのは、前回と同じく「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」。

- ・SRIが及ぼす、レポート作成や投資銘柄選択への影響について、全体の 35.3%が「影響している」と答えており、前回調査(2004年4月)の 21.0%から 14.3ポイント増加した。ファンドマネージャーの 37.5%、セルサイドアナリストは 28.6%、バイサイドアナリストの 28.0%が影響ありと回答。
- ・SRIインデックスの認知度が上昇。全体でトップの「DJSI」の認知度が前回 16.5%から 27.8%に。
- ・SRIの判断材料として重視するのは「取材、インタビュー」が 53.4%、「環境報告書」38.6%、「インターネットホームページ」30.7%、新しく項目に加えた「CSR報告書」が 28.4%で登場。
- ・日本でのSRIについて、全体の 67.7%が普及すると回答。前回の 60.5%から 7.2ポイント上昇。普及しないは 31.3%で若干前回から低下。

大和 IR は、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループにあって、上場・未上場企業の投資家向け広報(IR)に優れたノウハウを持ち、専門性の高いプロフェッショナルなサービスで実績を築き、コーポレート・ストーリーの構築からIR活動のアドバイザーまで、IRの幅広いサポートを行なっています。

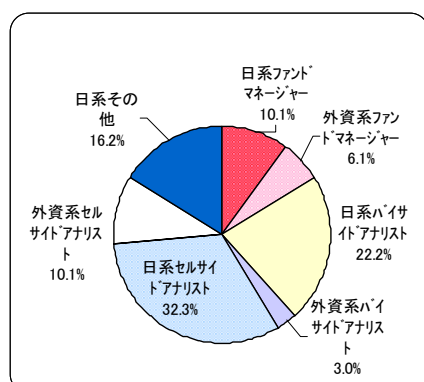
大和 IR では、企業のディスクロージャー活動を今後とも支援してまいります。

以 上

【お問合せ先】 大和インベスター・リレーションズ株式会社  
理事業務推進担当・米山徹幸  
業務推進部次長・石橋卓磨  
T e l 03-3283-7000 F a x 03-3283-7077

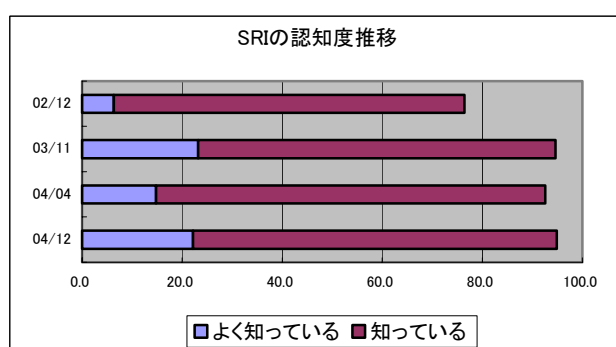
調査期間:平成 16 年 12 月 10 日～12 月 20 日

有効回答者数:99 名(ファンドマネージャー16 名、バイサイドアナリスト 25 名、セルサイドアナリスト 42 名、その他 16 名)



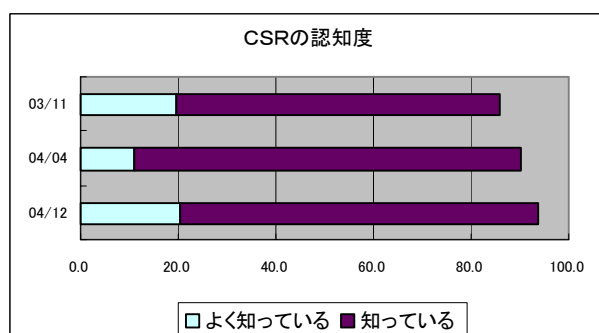
## 1 社会的責任投資(SRI)の認知度

- ① SRI の認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」、「知っている」を合わせて 94.9%と、前回と比較して 2.3 ポイント上昇、ほぼ 100%に近づいた。
- ② 職種別では、ファンドマネージャーが「よく知っている」(43.8%)、「知っている」(56.2%)で認知度 100%、バイサイドアナリストは「よく知っている」(20.0%)、「知っている」(80.0%)と同じく認知度 100%、セルサイドアナリストは「よく知っている」(14.3%)、「知っている」(76.2%)で認知度 90.5%となった。バイサイドとセルサイドでSRIに対する認知度に若干の差が出ている。

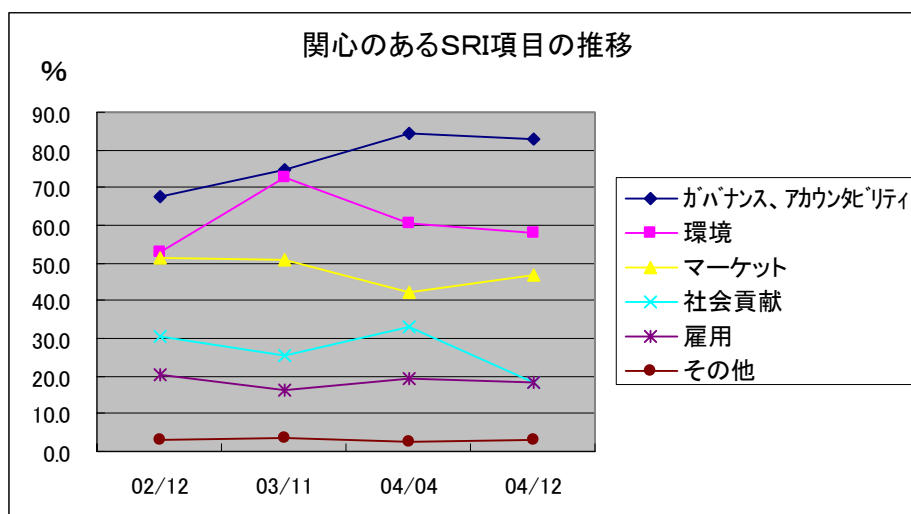


## 2 企業の社会的責任(CSR)の認知度

- ① CSR の認知度について質問したところ、全体で「よく知っている」(20.2%)、「知っている」(73.7%)を合わせて認知度 93.9%と、前回調査 90.1%を 3.8 ポイント上回り、関心の高さをうかがわせた。
- ② 職種別では、バイサイドアナリストが「よく知っている」(12.0%)、「知っている」(88.0%)の合計 100%、ファンドマネージャーが「よく知っている」(43.8%)、「知っている」(50.0%)の合計 93.8%、セルサイドアナリストは「よく知っている」(14.3%)、「知っている」(73.8%)の合計 88.1%となった。



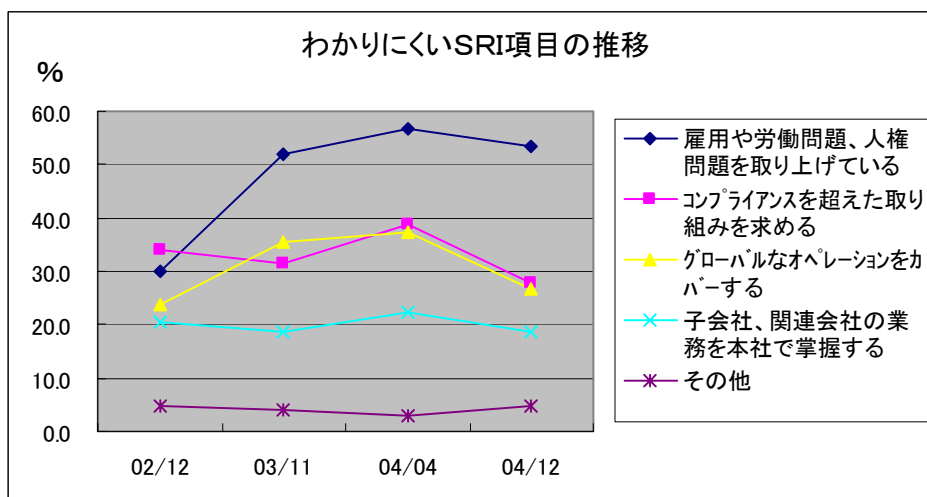
### 3 関心の高いSRI項目(複数回答)



代表的なSRIの5項目についてどれに関心があるかをたずねた。

全体で1位は「ガバナンス、アカウントビリティ(法令順守、情報開示等)」が82.7%(前回比-1.9ポイント)と微減、2位は「環境(環境リスクの低減、環境汚染物質対策等)」が58.2%(同-2.1)と一服、3位は「マーケット(消費者対応、取引先対応、顧客満足、調達方針等)」が46.9%(同+4.6)、続いて「社会貢献(地域社会への貢献、NGOとの協働等)」18.4%(同-14.9)、「雇用(雇用関係、人材育成、基本的人権の保護等)」18.4%(同-0.8)となった。

### 4 SRIの考え方で、分かりにくい、なじみにくい項目

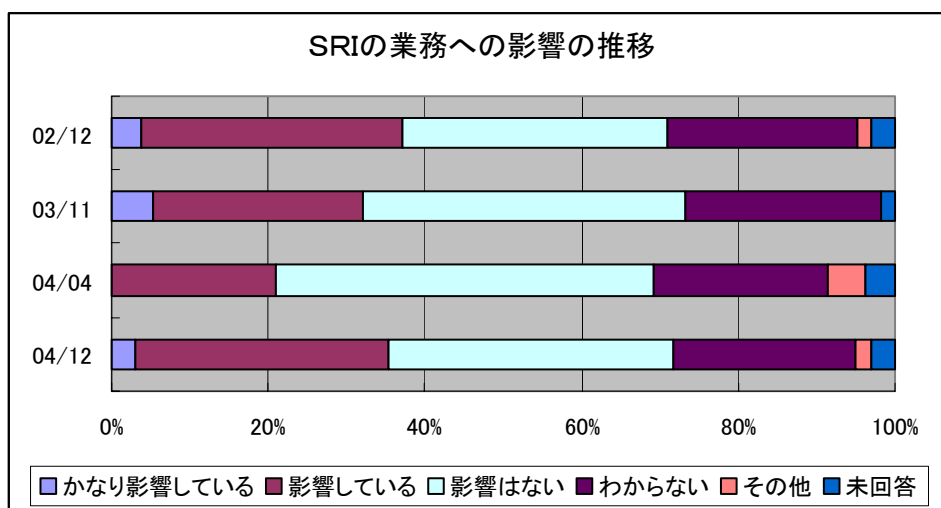


①全体で「雇用や労働問題、人権問題を取り上げている」が53.5%(前回比-3.2ポイント)が引き続き1位、2位は「コンプライアンスを超えた取り組みを求める」が27.9%(同-10.9)、僅差の3位が「グローバルなオペレーションをカバーする」26.7%(同-10.6)、以下「子会社・関連会社の業務を本社で掌握する」18.6%(同-3.8)、「その他」4.7%(同+1.7)となった。

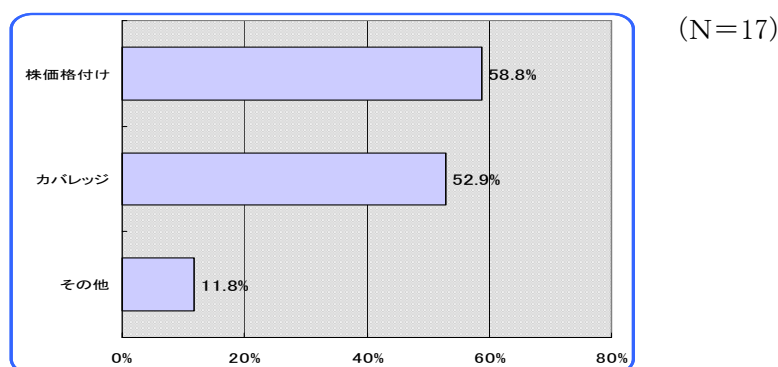
②「CSRの判断基準が大企業向けで、中小企業にそぐわない(日系アナリスト・小型株)」や「埋没コストとの折り合い(日系・その他)」とのコメントがあった。

5 SRIの考え方が、業務に影響を及ぼしているか

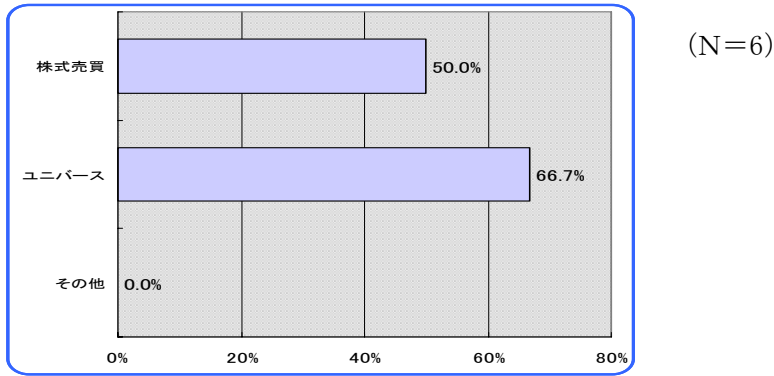
- ① 全体で、「かなり影響している」が前回 0.0%から 3.0%(前回比+3.0 ポイント)に、「影響している」は同 21.0%から 32.3%(同+11.3)、両方を合計した 35.3%(同+14.3)が業務になんらかの影響がでていると回答している。「影響はない」は同 48.1%から 36.4%に 11.7 ポイント減少した。
- ② 職種別では、ファンドマネージャーが「影響している」37.5%、セルサイドアナリストは「かなり影響している」4.8%、「影響している」23.8%の合計 28.6%、バイサイドアナリストは「影響している」28.0%となっている。



- 6 5で影響が出ていると回答したアナリスト17名が、具体的な影響を3つの項目の中から選択(複数回答)「株価格付け」58.8%(前回比+14.4 ポイント)、「カバレッジ」52.9%(同+19.6)、「その他」11.8%(同-21.5)。具体的には「著しい法令違反は推奨しないこともある(日系アナリスト)」、「銘柄選択(日系アナリスト・電機)」とのコメントがあった。

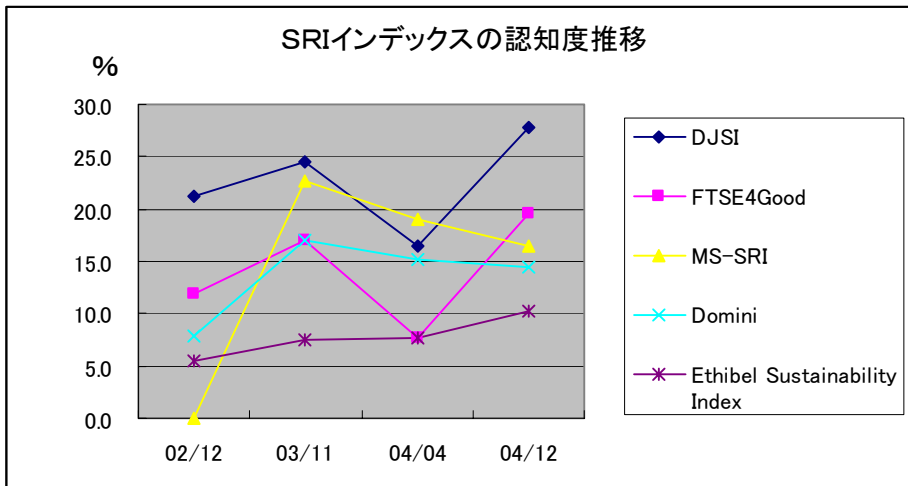


- 7 5で影響が出ていると回答したファンドマネージャー6名が、具体的な影響を3つの項目の中から選択(複数回答)「ユニバース(投資銘柄選択)」が 66.7%(前回比+16.7 ポイント)、「株式売買」が 50.0%(同±0)、「その他」0.0%(同±0)となっている。前回調査と比較すると、全般に影響が大きくなっている。



8 SRIインデックスの認知度(複数回答)

- ①認知度は上昇傾向。全体でトップは「DJSI」27.8% (前回比+11.3 ポイント)、2位は「FTSE4Good」19.6% (同+12.0)、続いて「MS-SRI」16.5% (同-2.5)、「Domini」14.4% (同-0.8)、「Ethibel Sustainability Index」10.3% (同+2.7)の順。
- ②職種別の認知度トップは、ファンドマネージャーが「FTSE4Good」43.8%、セルサイドアナリストが「DJSI」29.3%、バイサイドアナリストは「FTSE4Good」16.7%となった。



注)MS-SRIは2003年5月30日から計算されている。

9 注目しているSRIインデックス(複数回答)

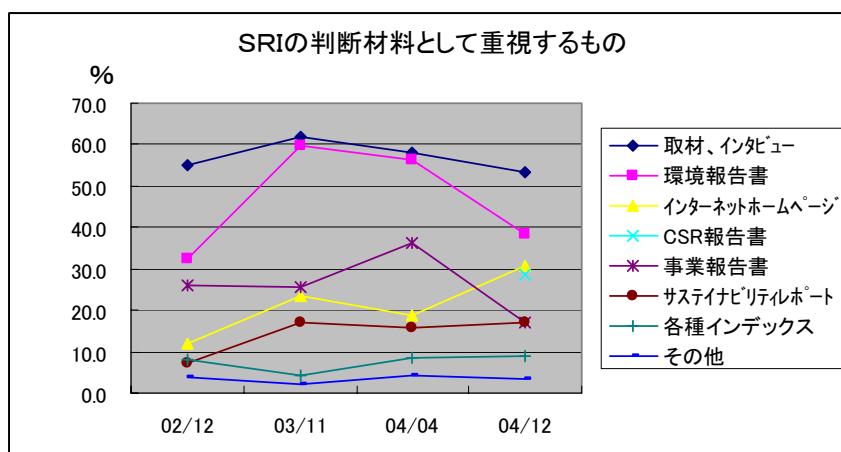
- ①全体で「わからない」が74.4% (前回比-10.4 ポイント)と圧倒的に多い。後は高い順に、「DJSI」12.2% (同+6.1)、「FTSE4Good」8.9% (同+8.9)、「MS-SRI」7.8% (同-2.8)、「Domini」6.7% (同-0.9)、「Ethibel Sustainability Index」1.1% (同-0.4)と続く。
- ②職種別でみると、「わからない」がセルサイドアナリスト、バイサイドアナリスト、ファンドマネージャーともそれぞれ82.5%、75.0%、60.0%でトップ。

10 インデックスの構成銘柄の認知度

- ①全体で「知らない」が76.8% (前回比-5.9 ポイント)と圧倒的に多い。「よく知っている」2.0% (同+2.0)、「知っている」19.2% (同+3.2)の合計21.2%と認知度は向上している。
- ②職種別でみると、「よく知っている」「知っている」の合計は、ファンドマネージャー37.5% (前回比+14.0 ポイント)、バイサイドアナリスト20.0% (同+4.2)、セルサイドアナリスト11.9% (同+4.0)

11 SRI の判断材料として重視するもの(複数回答)

- ①全体では、1位「取材、インタビュー」が 53.4% (前回比-4.6 ポイント)、2位「環境報告書」が 38.6% (同-17.9)、「インターネットホームページ」30.7%(同+11.9)、「CSR報告書」28.4%(新規項目)、「事業報告書」17.0%(同-19.2)、「サステナビリティレポート」17.0%(同+1.1)、「各種インデックス」9.1%(同+0.4)と、「インターネットホームページ」が「事業報告書」を逆転した。
- ②全職種で「取材、インタビュー」と「環境報告書」を重視しており、最近ポピュラーになった「CSR報告書」が「事業報告書」を上回っている。「サステナビリティレポート(持続可能性報告書)」は前回の 15.9%から 17.0%と若干増加している。ファンドマネージャーでは、「インターネットホームページ」が「環境報告書」と並んで 2 位となっている。
- ③その他の判断材料として「重視していない。あたりまえのことであり、これ自体が企業の競争優位性につながるとはいえない(外資系ファンドマネージャー)」、「企業からの IR メール(外資系ファンドマネージャー)」とのコメントがあった。



12 日本で SRI が普及するかどうかについて質問

- ①全体では、「はい(普及する)」が 67.7% (前回比+7.2 ポイント)と上昇、「いいえ(普及しない)」が 31.3% (同-0.8)、「未回答」1.0% (同-6.4)となった。セルサイドアナリスト(73.8%)、バイサイドアナリスト(64.0%)、ファンドマネージャー(56.3%)とも「はい(普及する)」が過半数を上回っている。
- ②「はい(普及する)」の回答の中で、普及するが、「時間がかかる」、「表面的」、「限定的」との指摘もあったが、「普及が進んでいくのが自然の流れ」とのコメントがあった。
- ③「いいえ(普及しない)」との回答には、「企業としてあたりまえのこと(外資系ファンドマネージャー)」や「目先のリターン確保が死活問題(日系アナリスト・非耐久消費財)」、「名前先行(日系アナリスト・機械・SPE)」などのコメントが多いが、「啓蒙して普及させる必要のある考え方」とのコメントもあった。

